カトリック高松教区報

２０１４年３月１６日（第１６０号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成： yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB:://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

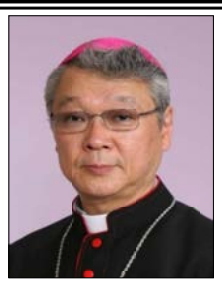
マザー・テレサの言葉
最大の悪は、隣人愛の欠乏です。
最大の悪は、ぎりぎりの生活をしている人々に対する、搾取されている人々に対する、そして貧困や病気にさいなまれている人々に対する、恐ろしい無関心です。

信仰共同体養成に取り組む

諏訪司教が司牧書簡

諏訪榮治郎司教は四旬節にあたり、昨年に続く宣教司牧書簡「信仰共同体の養成に取り組む」（２）を発表した。教区の司牧方針を確認するとともに現在進められている信徒養成の過程を振り返り、信徒の役割として集会祭儀の司式者の必要性と養成スケジュールにも言及。地域ブロック活動の大切さを語り、ミサによって『福音の喜び』のうちに生きていきましょうと信徒を励ました

信仰共同体の養成に取り組む（２）
目次
始めに　感謝・教区設立50周年からの一歩
（１）高松教区の方針
２０１３年度の教区宣教司牧教書の要約
ナイスの３本柱　①信仰　②共同体　③現実
（２）生涯養成
・２０１２年　信仰
①「信仰年」ダイナミックメモリー（信仰の目で人生を振り返る）
・２０１３年　共同体
②御ことばを味わう「７ステップ」
・２０１４年
③信徒の奉仕職
④「集会祭儀」（司祭不在時）にむけて
（３）教区の宣教司牧基本姿勢
地区（ブロック）を生きる　・協力宣教
（４）遣わされてミサを生きる　・対話の精神


諏訪榮治郎司教

信徒の集会祭儀実施へ

司式者養成の場設ける

新しい一歩の年に

＜はじめに＞
諏訪司教は昨年は公式訪問ですべての小教区の人々と交わりができ、『教区設立50周年の集い』が開催できたことを感謝。今年はその後の新たな一歩の年になり、『高松教区も福音を告げ知らせる新しい教会のあり方を策定していかねば』と決意を述べる。

＜高松教区の方針＞
教区が向かおうとしている方向は公式訪問のときに講話したとおり『福音宣教推進全国会議（ナイス）』に沿った歩みであると述べる。ナイスは『開かれた教会』を目指す三つのテーマ（信仰、共同体、社会への働きかけ）を提起した。『高松教区はこの三本柱の一つ一つを生涯養成プログラムとして教区の再生と一致に向かおうとしています』とする。

人生の主人公は神様

＜生涯養成＞
①『信仰』の養成
２０１２年は『信仰』をテーマに、信仰の目で人生を振り返る「ダイナミックメモリー」を全地区あげて行った。『教区民の集い』でもこの方法で分かち合われ、人生の歩みの中で働かれた神の業とその呼びかけに気づかされ、『人生の主人公は神様でした』と参加者はその印象を述べる。

②共同体の養成
２０１３年は『共同体』をテーマに養成が行われた。いつも生かされている神様の『み言葉の分かち合い』を「７ステップ方式」で実施した。司教は『この分かち合いが、人との関わり合いが難しい時代にあって、互いに心を開き聴き合う時、自分の弱さを素直に受け入れることができます。また悲しみや痛み、さらに和解の祈りを分かち合うことによって生きる希望と喜びをいただくのです』と述べ、信徒たちが信仰共同体へ成長することを祈り願う。

キリスト伝える任務

③信徒の奉仕職
この項で信徒の奉仕職を語る。私たちは洗礼によって「キリストに生かされたもの」になり、キリストが「私たちのうちに生きておられるのです」と述べる。私たち信仰共同体は「キリストのからだ」とされ、洗礼と堅信の秘跡によって福音を述べ伝える任務を持つ『キリストの祭司職』に生きるのだとする。この任務は信徒を含むすべての『神の民』の任務であり、『福音の喜び』をあらゆる場面で証する『共通祭司職』を担っているのだと述べる。

今年から司祭数減る

④集会祭儀
集会祭儀について語る前に司教は「２０１４年から担当司祭の数が確実に減ることになり、私たちは協力・協働する教会を作ることになります。司祭・助祭でチームを作り、複数教会の協力宣教司牧に当たります」と教区の深刻な現状とこれからの方策を語る。
典礼についても新たな取り組みがされる。「主日のミサ」はかけがえのない典礼だが、主日に司祭不在の時は『集会祭儀』が行われる場合がある。『集会祭儀とは共同体が一つの場に集い教会の公式な祈りに招かれ、みことばを聴き、分かち合い、賛美と祈り、聖体を拝領するというもの』。
この祭儀には司式する信徒の『奉仕者』が必要であり、今年度から高松教区でも正式な実施に向けて四旬節に各地区に養成の場が設けられることになった。諏訪司教は『地区（ブロック）からの推薦を受け司教が任命するというスケジュールを考えている』と述べ、信徒の奉仕職として信仰の目を持って受け止めて欲しいと願っている。

＜地区ブロックを生きる＞
いくつかの小教区を地区（ブロック）で統括し一つの共同体として宣教司牧し協力関係を作りたいという。小教区単独では担いきれない活動（役割）を地区として支えていくという考え。地区は教区と小教区を中間でつなぐ協力宣教を豊かに生きることになる。諏訪司教は、相互の対話が深まり、情報の共有によって思いやりと愛のある更なる豊かな取り組みに期待している。

福音の喜びに満ちて出かけましょう

＜遣わされミサを生きる＞
『ミサを捧げる私たちは、ミサごとに新たな光と喜びをいただき、生活の場へと派遣されていきます』と司教は述べる。そして月曜日から私たちは出逢う人と出来事を心から大切にするという『対話の精神』に生きるようにと勧める。「あなたが、わたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだ。あなたが出かけていって実を結び、その実が残るように』『互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である』（ヨハネの福音書）を引用。慰めに満ちたこの言葉をいただき『福音の喜び』に生きる幸せを祈り、出かけましょうと司教は信徒たちに呼びかけ『主の平和が皆さんとともに』の祝福で書簡を締めくくった。

２０１４年 高松教区辞令

◎司牧者派遣は地区/ブロック派遣とし、協力宣教司牧に当たる。（　）は前任地

本部事務局
本部事務局長・西川康廣助祭　　本部事務局次長・多田　洋氏
司教秘書　・岩﨑　武師　　教区広報担当　・谷口広海助祭
教区会計実務、桜町集会所管理・井川美佳氏

香川地区
・東讃ブロック
番町教会　担当司祭・松永洋司師
桜町教会　担当司祭・赤波江豊師（大阪教区）
小豆島教会　担当司祭・岩﨑　武師
三本松教会　担当司祭・ロバート・ロビンソン師（オブレート会）
・西讃ブロック
坂出教会　担当司祭・ホルヘ・ソーザ師
丸亀教会　担当司祭・フェルナンド・マヨラル師
善通寺教会　担当司祭・ネルソン・ウィリアム師
観音寺教会　担当司祭・マンソ・クレメンシオ師
池田教会　・複数司祭による司牧

徳島地区
鳴門教会　担当司祭・乾　盛夫師
徳島教会　担当司祭・イスナエル・ゴンザレス師
阿南教会　担当司祭・シルバー・ベルトラム師

愛媛地区
・東予ブロック
新居浜教会　担当司祭・稲毛利之師（西条教会）
伊予三島教会　・複数司祭による司牧
今治教会　担当司祭・デシデリオ・カンバラ師（小豆島）
西条教会　・複数司祭による司牧
・中予ブロック
道後教会　担当司祭・川上栄治師
松山教会　担当司祭・ルイス・グティエレス師
郡中教会　担当司祭・ハビエル・レチョン師、
・南予ブロック
宇和島教会　担当司祭・田中正史師
八幡浜教会　担当司祭・アルベルト・サイズ師
＊地区協力司祭：マリアノ師、イルデフォンソ師、アルベルト師、サトルニーノ師、ファン・マヌエル・ゴンサロ師

高知地区
中島町教会、安芸教会　担当司祭・イルダヤラージ・アントニサミー師
江の口教会、赤岡教会　担当司祭・パーキアナータン・クリスティニ師
中村教会　・複数司祭による司牧
＊地区協力司祭：硫黄隆二師、ブルゴアン・レモン師、トーマス・マヘル師

教区外移動
土屋和彦師（新居浜）・さいたま教区群馬県東ブロック大間々・桐生担当
レナト・フィリッピニ師(桜町教会)・ザベリオ会イタリア本部
ヒラン・インディカ師（江ノ口教会）・大阪教区伊丹教会
Sr.刀根美津子（桜町聖母幼稚園）・ナミュール・ノートルダム東広島修道院

はばたき

四旬節に入った。これから四十日の間、荒れ野で試みられたイエスの苦しみと受難を想い、神への純粋な愛と信仰に生きてゆきましょう。
二月初め、寒さの厳しい残雪が目に付く京都の冬を体感してきた。溝部脩司教様の金祝をお祝いするためだった。会場の西陣教会での金祝ミサ、青年のカテケージス、懇親会には全国から二百人を超えるお祝いの人々が駆け付けた。祈りと分かち合いと懇談の中で、司教様を囲んだ暖かいまなざしと喜びに満ちあふれた共同体ができあがっていた。
金祝を迎えられた司教様は「長くて短い五十年でした。私の司祭生活は常に若者とありました。こうして元気に五十年を祝うことができるのも、これら若者がわたしに力を与えてくれたからだと思います。司教という仕事を終えて念願であった青年活動に専念できることを最大の幸せに感じています」と述べる。
溝部司教様は今、京都の西陣教会に『望洋庵』という場を設け、若者たちをはぐくみ、若者たちとともに生きようとされている。希望を持って生きたい若い人、もっと広い世界へ歩みだしたい若い人、自分の人生をもう少し考えたいという若い人たちは訪ねてみてください。司教様は「やあ、こんにちは」と、あの温かい笑顔で迎えてくださるだろう。

ダイアモンド祝60

司祭叙階60周年おめでとうございます

ベルトラム・シルバー神父　叙階　1954年5月30日

オブレート会
ベルトラム・シルバー師

「日本の音楽に関心を持ち、謡（うたい）、尺八、大太鼓、小太鼓に携わってきた。それは、日本の良さや日本人の気持ちを理解する上でとても役立った。同時に布教のため私自身にとって、とても良かった。ライオンズクラブにも所属し、史上初の外国人会長となった。そこでバングラデシュの寄付のためによく働いた。

日本人のこころを理解

またそこの阿波踊りの連にも加わり、太鼓を担当した。オブレート会の管区長や会計係、幼稚園園長も務めた。色んなことがあったけど、失敗は私のせい、成功は神さまのおかげかな」と話された

Br・八木信彦

金祝50

司祭叙階50周年おめでとうございます

溝部脩　司教　1964年2月9日
イスマエル・ゴンザレス神父　1964年7月5日
乾　盛夫神父　1964年6月14日
硫黄隆二神父　1964年6月14日

教皇様が溝部司教様を祝福

溝部脩　名誉司教

高松教区名誉司教
溝部　脩　司教
Mons.Francis X. Osamu Mizobe S.D.B

司祭叙階50周年を迎えられるに当たり、これまで溝部脩司教様がご奉仕くださった福音宣教への感謝とともに、これからのご活躍の上にも、ペトロの後継者として心からの使徒的祝福をバチカン聖座よりおくります。

（教皇様からの特別祝福）

スペイン外国宣教会
イスマエル師

徳島教会に初めてスペイン外国宣教会から、イスマエル神父様をお迎え致しました。信徒一同感謝の内に御ミサに与り、毎週の説教を楽しみにしています。また、ミサ前に御席で黙想されている後姿は、私に祈ること・信仰を強めて下さいます。

坂出、丸亀そして善通寺教会の信徒の方々に愛され親しまれているイスマエル神父様。まだ徳島に来られて3カ月ですが信徒一人一人に優しく接せられ、ミサ後の庭での光景はすっかり日曜日の1シーンとなっています。早々に聖書100週間、要理講座とも2クラスずつ開講して下さり、優しく流暢な日本語でのご指導に信者・未信者とも勉強意欲満々です。

毎週の説教楽しみ

経験豊富で素晴らしい実績もおありになるイスマエル神父様ですが、謙虚な姿勢にカトリックの精神を教えて下さいます。神父様の堂々とした風格から安心と喜びを頂き、末永く徳島教会の信徒といっしょに歩んで下さることをお祈りしています。

桑原　稔実

高松教区にとっての大きな喜び

ヤコブ
宋 亨根（ソン・ヒョングン）

助祭叙階式

韓国 MOKPO,JEONNAM 出身
1981年6月18日生まれ
2002年～(兵役)～2009年
光州カトリック大学卒業
2009年8月 穴吹日本語学校入学
2012年
日本カトリック神学院入学
2013年3月 祭壇奉仕者選任

２０１４年２月23日（日）午後2時より、高松教区司教座聖堂に於いて司祭候補者・宋亨根神学生の助祭叙階式が行われた。出身の韓国からご家族を初め玉賢進補佐司教、司祭、友人約30名の関係者が駆けつけ、また日本各地から韓国籍司祭、神学生、青年も参列。韓国語と日本語併用による荘厳な典礼で、多くの教区民が見守る中で盛大に執り行われた。

宋神学生は、前教区長・溝部脩司教の尽力により２００９年８月に韓国・光州（クアンジュ）教区から来高した。その後、高松市内にある日本語学校で二年間日本語を学び、持ち前の鍛錬と努力を重ねた結果、日本語能力検定1級を取得した。そして２０１２年日本カトリック神学院神学課への編入が認められ、この度の助祭叙階に至ることになった。

高松教区に宋神学生を招かれた溝部司教は、挨拶の中で彼の養成には日本文化と日本人そして日本教会の理解を助ける意味で、できるだけ長い年月を掛けるよう配慮したと語り、宋新助祭のこれからの高松教区での働きに大きな期待を寄せられた。

オブレート会・乾盛夫師

古賀教会主任および暁の星幼稚園園長を長年勤められ、２００３年に郷里の鳴門教会主任および鳴門聖母幼稚園園長として今日に至っています。この間、教会関係のいろいろな団体の支部長、理事長、会長など多数の役務を兼任しながら、特にモンテッソーリ教育の啓蒙に尽力されました。

多くの役務に活躍

神父様の日常はとにかく忙しく、各種の任務を全うするため絶えず飛び回っておられます。私たち信徒としては神父様の健康を配慮して、もう少し仕事を減らしてくれるよう願っているのですが、活動的で何事にも全身で取り組むご性格の耳には届かないようです。

これまでのご苦労に感謝いたしますと共に、これからも健康にご留意の上、ご活躍されますようお祈りいたします。

福田健一

オブレート会・硫黄隆二師

１９７８年に安芸教会に４８歳で赴任して来られ海の星幼稚園の園長としてもご苦労されました。主日のミサに加えて、安芸から1時間余りの室戸市や山奥の馬路村魚梁瀬にも定期的に出掛けて、家庭ミサをされていました。

山道も車を運転

約20年間主任司祭として勤められました。福岡に転勤されていましたが、3年前に久しぶりに安芸教会担当司祭となられて戻って来られました。

80歳とは思えない若さで、車を運転され、膝の手術を受けられてはおりますが、頭もシャープで持病も無く、自炊されたり身の回り一切の事が出来る事を素晴らしく思います。そして、以前より大いに柔らかくなった厳格な神父様を皆気に入っております。

山口　幹

小教区紹介

善通寺教会（香川）

毎月2回　土曜学校開く

今から五十年ほど前のまだ出来たばかりの善通寺教会のことです。神父さまと数名しかいなかった信者が幼稚園の木造園舎の廊下で御ミサの後に、わかち合いの時間を持っていたそうです。

現在も御ミサの後に分かち合いを行っています。でも、今は廊下ではなく司祭館で信者手作りのケーキをいただきながらですが。

善通寺教会はとても小さな教会です。委員会を作るのは難しいので、担当を決めています。各担当が様々なことを提案し、みんなで話し合って決定します。この分かち合いの時間にみんな集まれば、まるで委員会の総会です。このようにみんなで話し合って決めるのは、五十年前からの善通寺教会の伝統といえるかもしれません。もちろん御ミサの後のわかちあいを行っているだけではありません。

毎月第2第4土曜日に土曜学校を行っています。善通寺聖母幼稚園の園児や卒園児が通っています。未洗者ばかりですが、クリスマス夜半のミサにも数組の家族が来てくれました。

また、エキュメニカル礼拝の会場にもなっています。毎回プロテスタント教会の牧師先生や信者さんたちと共に教会一致の祈りを捧げています。

毎年十一月に行われる聖母幼稚園のバザーに教会のお店（マリアショップ）を出店しています。パウロ書店からの委託品のほか、信者手作りのロザリオ、聖書ぬりえ、プレゼピオなどを販売しています。売上はカリタスジャパンに寄付しています。

善通寺教会は小さいながらもそれぞれが担当を持ち、責任感とまごころで、より良い教会にしようと頑張っています。みんなでよく話し合い、協力し合う仲の良い共同体です。これからも力を合わせて、信仰の喜びを西讃ブロックの一教会として、地域に分かち合うことができるよう活動していきます。

善通寺教会　山本　香

神学生便り

助祭・司祭候補者認定へ

哲学課2年高山徹

お陰様で、今年度を以て2年の哲学課程を終え、この度「助祭・司祭候補者認定」に与ることになりました。これまで支えて下さった全ての皆様に心より感謝申し上げます！

想い起こしますと、高松での2年の志願期、東京の神学院での2年の哲学期と、4年の養成課程を歩ませて頂いたことになります。日々とても充実した時間を頂きましたが、振り返るとあっという間の4年間でした。

今年度は、色々な場を通して、チャレンジをさせて頂きました。

私の苦手なことの一つですが、全体を見つめて必要なことを判断・実践していく訓練をさせて頂くことが多かったように思います。だからこそ訓練の機会を与えて頂いたのかもしれません。今もその訓練は続いております。また、み言葉の黙想で得たものを、小教区でお話する機会を度々与えて頂きました。

これらの経験に共通する大切な点は、広く意識のアンテナを張ること、考えを整理して言葉にすること、何より祈りと愛、そして、落ち込むことが多くとも、何にも増して感謝すべきことであると振り返っております。

来年度より3年間は、福岡の神学院で神学を学びます。その意味でも、今回の認定は、次の段階に進む大切なステップと言えます。そしてこれは、教会法や神学院発行の『司祭職への歩み』によりますと、司祭職を目指し養成を受ける私自身の決意の表明でもあります。決意表明後も、出会い、経験等の段階一つ一つを大切に受け止めて、歩んで参りたいと思っております。到らない私ですが、どうか今後もお祈りとご指導をお願い致します。

祈りの県樹メッセージ　こんな教会になりたい

＜徳島地区県樹メッセージ＞

徳島地区は県樹であるやまももの樹に、徳島、鳴門、阿南の3教会から、多くの祈りのメッセージが寄せられました。

そして愛らしい赤い実を飾る、やまももの葉のメッセージは、視覚的にも信徒の祈りの内容と同じく、心のこもったとても美しいパネルに仕上がりました。そして「どのような教会になりたいか」という問いかけに対して、地区の皆さんの大切な思いや願いがいっぱい詰まった、メッセージをたくさんいただきました。それは大きく分けて4つの希望や願いが感じられました。集約すると次のとおりです。

思いやりとやさしさ

・風通しがよく心穏やかになる教会
・思いやりとやさしい雰囲気のある教会
・いつも開いている温かい教会
・神さまを大切に感じ、神さまから祝福される教会
・愛の光に満ちた教会
・ほほえみにみちた教会
・明るく楽しい人間関係の教会
・明るい挨拶をする教会
・主における家族のような教会
・笑顔がいっぱいに輝いている明るい教会
・元気で活気のある教会
・主に祈り続ける人々の集まりになる教会
・気持ちにゆとりのある教会
・共同体一人ひとりの信仰を強められる教会
・心を大事にする教会
・尊敬の念を心に持ってさりげなくふれあえる教会

地域の人々との交流も大切に

・お互いに赦し合える神の民となれる教会
・つながりを大切にする教会
・温かい言葉、温かい心で受け入れる教会
※複雑化、孤独化する日常生活の中で、教会で出会った、愛と信頼、やさしさやなごみで心がいやされ、力づけられ、さらに希望のあふれる教会となりますように。

高齢者と若者が交流

・人とのつながりを大切にする教会
・高齢者と若者が話し合ったり、祈り合ったりできる教会
・大切な教会の家族たちの支えになれる
・家庭的でいじめや陰口のない教会
・一人ひとりに与えられた才能を、置かれた場所で咲かせられる教会
・ほっとできる教会
・全ての人が尊敬の念を抱き、愛し赦しあえる教会
・愛にみちた家族のような教会
・神から与えられた道を信じ、感謝し、喜びを持って共に歩める教会
・自分の役割を見出すことができる教会
※高齢者と若者と家族のギャップを、お互いが聴く耳を持って、ギャップの解消に努力して、共に歩んでゆける教会になれるように。

地域社会への奉仕も

・信者でない人も、いろんな人が一緒に来ることができる教会
・地域の人や子供が集まってくる教会
・信仰を求め訪れる人たちをやさしく迎えられる教会
・すべての人に神の愛をもって祈り続ける人々の集まりとなる教会
・地域の若者が来て親しみやすい教会
・バザーや歴史、コーラス等特色のある教会にして、一度は行ってみたいと思われる教会をめざしたい
・少しでもホッとできる場としての教会
・地域社会への奉仕も大切にする。
※自分の住んでいる周辺での集会行事等にも積極的に参加して、教会の近隣の人達との挨拶や、地域との交流も大切に努力できますように。
自分が未洗者であったらどうしてもらいたいか考えて、相手の気持ちになれるよう努力できますように。

子どもが楽しく遊べる

・子供たちの明るい歓声が聞こえる教会
・子供が元気いっぱい集える教会
・スポーツ用具等が備えられ、子供が元気に楽しく遊んだり、駆けまわれる教会
・親たちの会議等の待ち時間に、子供が楽しく過ごせる工夫のある教会

最後に信徒一人ひとりが綴った大切な思いが、小さな徳島地区を育てる糧となりますように。

信者、未洗者、高齢者、若者、子供たち、全ての人が尊重の念を抱き、愛し赦しあえる神の民となれますように、共に感謝し祈りたいと思います。

神さまから与えられ道を歩み、各自の力を生かすことが出来るように。そしていつもグッドニュースであふれる、明るくあたたかい教会となりますように。県樹やまももを通してお祈り致します。

＜香川地区県樹メッセージ＞

教区設立50周年記念行事において香川地区8小教区から寄せられた県樹奉納における葉っぱは総数２０９ 枚でした。

それを適当なキーワードで分類すると感謝（35）、期待・希望（77）、願望（38）、決意（29）、提言（20）、外国語（10）のようになりました。その一部をご紹介してみます。その後、そこから得られたヒントについて述べてみたいと思います。

・教会はわたしにとって出会いの場、よき友に恵まれた場です。祈りの場，共に助け合う場です。
・キリスト教に出会えたことに感謝します。これからも迷わず信仰の道を歩んで行くこと　ができますように。
・イエス様とマリア様のご加護の内に50周年、おめでとうございます。
・すばらしい小豆島教会を残して下さった先人の方達に心から感謝致します。閉った日が多い聖堂を、出来るだけ開けるよう努力します。
・みんなが笑顔であふれる教会。
・祈りの教会になってゆくことを希望します。
・元気のある教会。
・人の集まる喜びあふれる教会作り。
・いつでも誰でも立ち寄れる教会。
・祈る教会をめざして。
・教会奉仕者が増えますように。召し出しがありますように神様へお祈りします。
・心を一つにして。神様のみ旨に従い歩めますように。
・祈りが出来る教会 、共に誘える教会。
・共に支え合える教会。
・子供のミサ答えに期待します。

侍者の子に期待したい

召命の芽はそこからのように思えます
・誰もが訪れやすい暖かい教会

人が集まる歓びあふれる場に

・少ない信者の一人一人が元気で 教会に来る事が出来ます様に心から願っています。
・み言葉を伝える教会。
・みなが少しずつでも、たまものに応じた労働をすることで、教会がみんなの家と思えるようになり、感謝に満ちた教会になったらいいと思う。
・それぞれの小教区が高松教区といつも心を併せていけますように
・教区の為に聖マルチン病院の建築プログラムが、神さまのお心にかなうよう実行されますように。
・信仰の話も世間話も輪になって話し合える教会であって欲しい。
・社会との繋がりをもって生き生きと働く教会。
・ダイエットをしてお腹がへこみますように。
・運動しんけいが良くなりますよに。
・めちゃくちゃよいこになりますように。
・初めて教会へ来た方に声かけができますように。
・家族が信仰に導かれますように。
・家族の者が互いに思いやりを持ってより添えますように。
・高松教区の再生の効果が一致につながりますように。
・オルガンが上達しますように。
・小教区共同体がいつも建設的意見を出して話し合い、祈り宣教につとめ活気のある教会を目指したい。
・自分に出来る教会奉仕をする。
・　老いても諦めるな。小さなことにもチャレンジしよう。
・開かずの教会を解消する小豆島
・ロザリオの祈りを各信徒が唱

日曜日のミサ楽しく

え、これを日曜のミサで奉納し、集約して年の始めに在籍する聖職者と前年の教区内物故者に捧げる事を目的とする会をつくりたい。
・日曜日のミサが楽しくなるような教会であって欲しい。そのように努力したい

・KYOKAI wa IKITAI TOKI MO ARU DES
SHIMATTERU KARA　AKETE　HOSHID ES
・Panginoon ako po ay nag papa salamat dahil nay mayroong sim bahan dito sanapo magpatuloy p a ang mga pagpapahayag ng mabu ting balita　at mga panalangin Salamat po　PAPA JESUS

会議でも出ていたように意見をキーワードにより分類することとしましたが，意見を読んでいくうち6つのキーワードが浮かび上がってきました。

しかし、それらのキーワードが包含する範囲には必ずしも明確な区別はつかず、読む人によっては受け取り方や分類のし方が違ったものになるであろうと思われます。

そして実はこの事が予想外の気持ちを感じさせるものとなりました。それは原文が意図している内容、言いたいことは何だろう、どう分類すればよいかという目で読み返し、書き写していくうちにだんだんその人の思いが心に響くようになってきたのです。

明らかに小学生と思われるたどたどしい字で書かれている内容は素直に心に飛び込んできましたし、大人や若者の率直な意見は、この人が今胸に抱いている一番言いたい事、心に描く目的なんだろうな、という思いを湧き上がらせるに十分でした。

同じ神を心に戴く共同体員の気持ちとして、十分共有する事ができました。これは大きなお恵みでした。これだけでも50周年の記念行事を良しとするに十分なものとなったことだけはぜひ皆様にもお伝えしなければならないでしょう

沢山のご意見、思いを改めて読んで今の教会で求められていることは何だろうかと考えてみました。そしてそれは、ほんの少しでも今より心を開き、今までよりもう少し良く祈り、出来るだけ微笑を忘れないことではないかと気づきました。躊躇したり警戒したりする前に、まず歩いてみてから考えるということです。

躊躇せず歩いてみる

「教会の扉が開いていれば聖体訪問ができるのに」というご意見からは、だったら他にできる人が鍵を預かり管理方法や当番制などのルールを司祭を含む関係者で決めて実行することもありでしょう。

「ロザリオの祈りをミサ中の奉納に加えて集約し」、司祭・修道者・神学生のために、物故者、病者、求道者のために祈りを捧げることは素晴らしいことだと納得した人がそれを率先し周知すればよい。地区内、ブロック内小教区へ声掛けを行って、統一した方法や意向をまとめれば更に共感する人も増えることでしょう。

祈りの県樹メッセージ　こんな教会になりたい

＜愛媛地区県樹メッセージ＞

愛媛地区の県樹『松』の葉のメッセージは２９２件が寄せられた。

【感謝】【希望・願望】【祈り】【決意・提案・意見】の項目別に紹介する。

50周年お恵みに感謝

【感謝】教区設立50周年を迎え神のお恵みに感謝、それを支えた司教、司祭、信徒役職の方々への感謝が多かった。『特に教区に試練の嵐が吹き荒れていた時、仙台教区より高松教区に着座された溝部司教様に心からお礼申し上げます』と、この50年間の大きな危機を苦労して乗り切られた教区の恩人への感謝が目についた。

また、はるばる四国の地へ来られ苦難に耐えながら信仰の種をまき、信徒を導き、一生を捧げられた外国人の神父様方への熱い感謝の思い、ご冥福の祈りが多かった。

力強い福音宣教望む

【希望・願望】信徒たちが一致して集う理想的な教会の姿として『愛し合う』『助け合う』『仲良く』『信じ合い認め合う』『なごやかな』『暖かい雰囲気の』『家族のような和が広がる』など表現できるあらゆる言葉が目白押しだった。

そしてキリストを中心にした教会、みことばに養われ信仰を深め合う教会、時代の移り変わりに正しく対応できる教会、常に社会へ門を開き力強い福音宣教ができる教会など社会へ向かって宣教する力を強くしたいという望みが述べられている。

キリストと共に歩んで行こう

外に向けて社会奉仕

【決意・提言・意見】『教会の外での社会奉仕をしながら信仰を深め、みことばを伝えたい』『聖霊の息吹に満たされ福音宣教の証し人になれますように』など教会の現状に対し福音宣教がさらに栄えますように』『教区をお守りください』『教区が愛であふれますように』など、これからの教区の堅実な歩みへの願いが書かれている。

子供たちや若者へは『心豊かな信仰心を持ち、知恵と勇気と希望のうちに成長しますように』。

また『忍耐することを学んだ』とか『裏切られても赦し続ける勇気を』『心の平安を持って人と接することができますように』『信徒の和を』などの言葉もあり、教会運営の中での葛藤の一端が垣間見えるような少し気がかりな言葉も見られた。

『神父様がいつも教会にいて信徒とともに歩んでください』など司祭の教会常駐の願いも。

愛があふれた教区に

【祈り】設立50周年を迎えた教区が今後さらに発展しますようにとの祈りが多かった。『教区の必要性が強く主張されている。

一方『キリストと共に一致して歩み続ける教会』『神の愛に包まれて歩もう』『父母から受け継いだ信仰を子供たちにしっかり伝えたい』の決意も。

外国国籍の信徒だろうか『通訳を正確に、言葉で問題を生じさせたくない』との意見も。

◆メッセージ分類・分析

分類と分析次の通り

・感謝　１０８・希望、願望（教会の今後に希望、願望）83
・祈り（個人的な願望も）51
・決意　44
・提案、意見　6

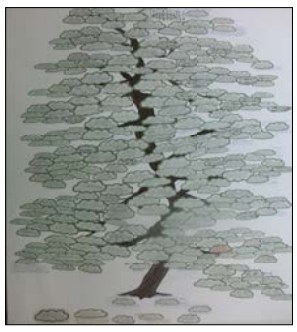
【感謝】
・神、聖霊の恵み、イエス、マリア、教会への感謝　24
・司教、宣教師として働いて頂いた外国人神父、その他神父方への感謝　16
・50周年の歩みに感謝　14
・教会の為に働いて下さった信徒達、導いて下さった信徒、友人達に感謝　11
・その他感謝（修道生活召された事、受洗の恵みなど）

【希望、願望】
・互いに愛し合う、助けあう共同体となるように　20
・信仰の喜びを体験、分かち合えるように　12
・力強く、信仰を深めながら、福音宣教が出来るよう　10
・開かれた教会　7
・教会及び信徒の一致、幼稚園との交流　7
・若者、子供が集う教会　6
・司祭の常駐　5
・家族の洗礼　5

【祈り】
・個人の信仰心に関する祈り（導き、叡智、御加護、聖母の憐れみ等）　17
・教区の発展、神の御加護、導きを望む祈り　9
・世界平和、平等を望む　7
・若者，子供に関する祈り（信　仰心、健やかな成長など）5
・病者、苦しんでいる人、死者に関する祈り　5
・教区の為に働いている人たちへの祈り　3

【教会、共同体に関する決意】
・ありのままを受け入れ、赦し合い、信頼し合い、助け合い、分ち合う明るい教会　11
・キリスト中心の、愛ある、温かく迎え入れる、恵みをより感じる教会　5
・変化する社会に積極的に福音宣教する教会　4
・人が集まる活力ある教会　3

【個人に関する決意】
・心から人を赦し、いつも肯定的に、忍耐と心の平安を持ち、優しい心で人に接する　10
・自らの信仰を深めながら、福音宣教　5



＜高知地区県樹メッセージ＞

主よ、私たちは高知県の県樹である杉の木の葉に、心を込めて祈りの言葉を書き記しました。

それらは平凡であるかもしれませんが、私たちキリスト者が未来に向かって歩んで行くための指針となる、大切な祈りの言葉です。その主なものを下に列挙いたしました。

いつも笑顔で仲良く

教会に集うみんなが仲良く助け合い、お互いを気遣う兄弟姉妹として、いつも笑顔で交わっていける教会、みんなが心を主に向けて真の一致を求め、神の愛の実現へと向かう教会。これが私たちが目指す教会の姿であり、私たちはそれに向かって、倦まずたゆまず前進して行く決意です。

私たちの希望を託した言の葉を繁らせた、この杉の樹をいま、ここに奉献します。そして、この樹がみんなの祈りの力によって、より大きくたくましく生長しますように。

杉の樹は、その多くが建築材として用いられます。杉で建てられた家屋は堅牢で、そこに住まう人を末永く守り続けます。私たちキリスト者は、神の大工としてここに集っています。

建築の仕事は多岐に分けられ、一人ひとりの技術や能力を結集させなければなりません。私たちのすべての祈りを吸い上げたこの杉の樹を使って、みんながの教会を建てること。それこそが私たちの務めなのです。

主よ、弱い私たちをいつまでも見守り続けてください。

真の一致求め神の愛の実現へ

許し合い分かり合う

・協力と一致のある教会
・心から赦し合い、分かり合えられる教会
・苦しみを忘れて、楽しく過ごせる教会
・共に喜び、共に生きる教会
・「おはよう」「こんにちは」がみんなで言える教会
・新しい人々が道を求めて集うことができる教会

地域の人も立ち寄る

・神様の愛が実感できる教会
・年齢に関係なく、いつでも気軽に立ち寄りたくなるような教会
・地域の人々が気軽に立ち寄れる教会
・世界中の人々が共に祈り、集える教会
・隣人のために奉仕できる教会
・希望が湧いてくる教会
・一人ひとりの思いが受け入れられる教会
・良い説教を聞くことができる教会
・主任神父が常にいる教会
・高松教区の救いの道標となるような教会
・一人ひとりを招いて救いを与え、救ってくれる教会
・常に祈りのある教会
・みなさんと一致できる、笑顔のある教会

1・4月下旬に、地区として四国の各小教区の教会の巡礼を実施し、祈りを共にし、信仰を深め合う。

2・信徒の間で、セブンステップによるみ言葉の分かち合いを行い、「み言葉祭儀」の研修も並行して行う。

3・月一回の割合で、信徒間で聖書の研究を行う。

4・現在高知に滞在しているインドネシアの信徒に依頼して、アジアにおける国際交流についての講演をしてもらう。

5・2月の下旬に、フィリピンの災害復興支援のための、交流会を実施する。

私たちは、自分を創造しようとするこどもを
まなび、護りましょう
暁　の　星　学　園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

若い力

高松教区青年の集い テーマ『私たちが教会です』

松山教会　深堀　景應

1月18、19日に愛媛県松山市北条にある聖カタリナ高校が所有している北条セミナーハウスにて青年の集いを行いました。松山からはもちろん、香川、徳島からも集まっていただき司教様、ブラザー合わせて13人と一泊二日、わいわい食事をしたり、祈り、歌を歌ったり非常に盛り上がった二日間でした。また今回宿泊させていただいたセミナーハウスはまるでホテルのように施設が充実しており快適な空間で過ごすことができました。

食事に関して、全員で調理し鍋を囲んだり、お好み焼きを焼いたりして会話も笑いも途切れることなく大変にぎやかでした。また、成人の祝いも二人のためにみなさんが準備してくださっていて、みんなに愛されているなと幸せに感じました。

もちろんただ食べるだけではなくしっかりと全員で祈りもしました。それぞれの今までの人生を振り返ってどんな時に神様の存在を感じるかということや私たちにとって神様って何だろうといったことは普段生活していてあまり気にするときは無かったので、そういったことをみんなで共有する貴重な時間にいられたなと改めて思いました。

祈り語った貴重な時間

最後にこの二日間で私が思ったことは、ありのままの自分でいることができたと思います。一人暮らしをしているとなかなか家族の前にいるときのように素直でいられる場所が少ないのですが、その数少ない居場所の一つに仲間入りした(笑)と実感できました。

次回が早く来ないか待ち遠しいです！！

『典礼奉仕』のために　(23)

「みことばの分かち合い」

高松教区典礼委員長　レナト・フィリッピニ

気づくことの喜び

初めてづくしの私は地下聖堂に入るのも、黙想も初めてでした。私にとっては催眠術みたいですごく戸惑いました。今でも私はみことばを祈れず、自分のことを祈っていることがあります。いつも聖書を自分の直感で、自分の都合のいいところを読んでいました。じっくり考えることになかなか慣れることが出来ません。

「瞑想の中に安らいで祈れる人になりたい」と、それが目標になり、レクツィオ・ディヴィナに参加するのが楽しみになりました。導入の語り手は神様との新しい出会いへと導いてくれます。いつも気づくことの喜びと、到達できなくても楽しさがそこにあります。分かち合いで他の人の感想が聞けることは素晴らしい機会です。この祈りの時間をこれからも大切にしたいと思います。

岡本利律子

みことばを生きる

「始める前に、まず私たちがここに『いる』ということを意識しましょう。椅子に座っている身体を感じましょう。呼吸を整え、心臓の鼓動に耳を傾けましょう。これから私たちが体験していくことは『祈り』です。いのりとは、神様との対話であり、私たちに語りかけておられる神さまのみことばに耳を傾けることです。」

ゆっくりと、静かに導入の言葉が始まります。最初にこの導入の言葉を耳にした時、20年前にある病院で始まったリラクゼイション（心療内科でのリラックス療法）を思い出しました。自分が今そこにいるとの思いを認識させるものでした。このレクツィオ・ディヴィナの手法と相通じるものがあると感じました。

み言葉に耳を傾け、神様からのメッセージを受け取るために聖霊の働きが必要であることも私たちは学びました。

私たちは「みことばに耳を傾けましょう」、「御言葉を味わいましょう」、「み言葉を生きましょう」という3つの手法を学び、それぞれのステージで時に感動し、時に困惑し、時に連帯しながら、み言葉の分かち合いへと進んでいきます。

土居完爾

私の歩み照らす光

早いもので、レクツィオ・ディヴィナに参加して、2年という月日が流れ、感慨深いものがあります。私にとって、日々の生活の中で祈りの時間と、空間を与えられていることは本当に渇きを潤してくれる泉になっています。

静かに黙想しながら聖書のみ言葉の一つひとつを通して、神様が私に何をしめそうとなさっているのかを求めつつ、神様からのメッセージを深めていきたいと思っています。また、皆様とみ言葉を分かち合う恵みを頂いていることも、きっと神様からの贈り物に違いありません。

これからも「あなたのみ言葉は私の道の光、私の歩みを照らすともしび」（詩編119）に導かれ、信仰の道を歩み続けて行きたいと思います。

香西まり子

「聖書に生きる」歩みを通して神を知る

〈全聖書読み終えて〉②

この歩みを通して「神である主イエス・キリストを知っているか。」と言う問いに度々出会いました。ヨハネは、自身の歴史的情況や体験の中で、神である主イエス・キリストに知られていると言う実情があります。ヨハネの黙示にいたっては、神の言葉を直視して内面化させる心を養った宗教観に共感致しました。私の中では、「難儀な黙示」と言う観点がありましたが、その箇所を西川先生の道破によって、私の命へと変革の体験をさせていただき、まず、その事への感謝を申し上げます。次に、旧約の時代においては、神のいかりである戦争や神の助けによる恵みの体験が度々繰り返される事で、人達の成長につながっていった事であります。

又、神によって創造されたアダムとエバは、神の知恵に囲まれた生活である事に気付かず、人間的な思考に向かい本能的な姿を見る事でありました。さまざまな状態の中でのさまざまな時の体験が、神の助けによって霊を受け命を得ましたが、留まる事をせず「知らない」と拒否をしたイスカリオテのユダの選択も私の中では、他人事ではありません。

エゼキエル書では、聖なる方は、破壊を好まず、赦しを与えようとして悔い改める事を待ち望んでいると、真の神の姿を伝えています。又、いと高き方が造られたすべてのものは、相対している現実がある事です。光と暗、神と人、人と隣人、罪と罰と言う二重の構造であります。刈り入れの時の収穫も二種類あり、本当の収穫をする様にとの教えであります。歴史と共に段階を持って知ることが出来た神の姿は、私自身の信仰の基軸を主イエス・キリストに向かわせて下さいました。

那須加津子

罪からの解放叫んだイエス

6年間、あまり参加出ませんでしたが、お陰様で、刈り入れ時を無事に迎えられました。皆様のお蔭と、感謝申し上げます。私にとって、100週間は2回目のチャレンジでした。1度目は10年前でしょうか。東京の真正会館で参加させてもらいましたが、最後の方で、高松への引越となってしまい、そこのところはレポート提出でのなんとかかんとかの卒業でした。この時に心に残ったのは、「恐れるな」という言葉でした。共にいて下さる神を信じて、恐れずに一歩踏み出す。その言葉に共感して、高松での姑のお世話や、北海道で自然の中にドップリ浸かって、神に飲込まれる生活に踏み出すことが出来たように思えます。

そして、その高松や北海道での生活は、今回の「聖書100週間」と並行したものでした。そんな中、今回心に深く感じられたのは、「解放」という言葉です。西川先生にユダヤの民は捕囚され国を失い、自分たちのアイデンティティーを探っていく中で、ヤーウェ信仰を旧約聖書のあの高みまで引き上げた事。その中でモーセによるエジプトでの奴隷状態からの解放を歌い上げ、自分たちの捕囚からの解放を願ったことが、良く理解出来ました。ところが、捕囚から帰った彼らは、それからも列強の軋轢の中、自分たちの足場を固めようとするあまり、今度は逆に彼らが歌い上げた「神との契約」に自分たちをがんじがらめにしてしまう。そんな時に、神が遣わして下さったのが、イエス。彼はユダヤ教の世界にいて、その契約を守れない人々が罪悪感に苦しむ様をみて、罪からの解放を叫ぶ。神は苦しむ人といつも共にいてくださること。病や貧しさは自分の罪深さから来るものではなく、それを自分の至らなさから来るものだと思った時に初めて苦しみになってしまうものであること。

病や貧しさと共にいて下さる神を見出すことによって、病や貧しさと正面から向かい合え、それをしっかり見つめられた時、その苦しみから解放されることを叫んだ。それが彼の言う「罪からの解放」だったと私は理解しました。そして、その「解放」を喜ぶことが出来た今、これを苦しむ人々にしっかり伝えなくては！それが福音宣教なんだと、改めて深く心に留めました。

その為には、人と関わる時に神の介在を常に意識することが今、私に求められているのでしょう。

亀井安子

転出される神父さまシスター方へ　送別と感謝　心からの感謝を申し上げます

教区の皆様大変お世話になりました。大きな祝いを共にできましたことはわたしの大きな喜びでした。神学生の皆さんも司祭への道を着実に歩まれていることは、素晴らしいことです。高松教区がこれからも人々の希望の光となり照らして行かれますことをお祈り申し上げます。ありがとうございました。

Sr.刀根美津子

よき学びに感謝

ここでは教会と幼稚園が密接にかかわっていることを体験いたしました。また、高松教区設立50周年と宋神学生の助祭叙階の工夫をされました。聖堂内外の環境整備やミサに関しては「侍者の奉仕」「聖書朗読の注意」「典礼委員会のあり方」等の勉強会他、信徒の信仰養成を積極的に推し進められました。

レナト神父

典礼の勉強をご指導

神父様は何事も積極的に取り組まれ、古い仕来たりを毀し、教会を新しく生まれ変わらせる

自らは月一回の「レナト・カフェ」で信徒との交わりを大切にし、毎週の「司祭室から」や「イエスの教えてくれた祈り」の翻訳出版など、私達の祈りの手助けをして頂きました。

神父様、イタリアに帰られても、健康に留意され、有意義な時間をお持ちください。

和田和男

土屋和彦神父

楽しい思い出尽きぬ

土屋神父様とはミサや聖書、一緒に聖歌を歌い、時には食事を共にと楽しい思い出は尽きません。

私は今年になって御母上様のお体が悪いことを友人から聞いていましたので、今回のご転任も神の溢れるばかりの御慈しみと御摂理に感謝しなければと自身に言い聞かせております。

これからは埼玉においてご家族の皆様と共に、また司祭としてのご自分の務めを存分に果たされてくださいませ。私たち一同、本当にお世話になりましてありがとうございました。心からお礼申し上げます。

加藤照世

ヒラン神父

信徒と共に歩まれた

ヒラン神父様、スリランカと日本の文化のちがいや各小教区の違い等に御苦労されたことと思いますが、一つ一つ乗り越えて信徒と一緒に歩んで下さいましたね。ロザリオの祈り、み言葉のわかちあい、聖歌の練習、病人訪問等も軌道にのり、嶺北地域のミサも再開されました。これからも継続しますので、ご安心ください。

病人の枕元で、同じ目線まで長身を折り曲げ、優しく頭に手を置かれ、祈る姿やシャロームの集いで素敵な絵手紙を描かれる神父様の姿がとても印象的でした。

村上美津恵

医療のともしび (39)

「いのちの言葉」（星野富弘さんの言葉より）

星野富弘さんをご存じの方は多いと思います。彼は中学校の体育の先生だったのですが、24歳の時クラブ活動で鉄棒の指導中頚髄を損傷し、首から下が全く動かなくなってしまったのです。
2年間の入院・リハビリ生活の後、口に筆をくわえて文や絵を書き始めるようになったのです。彼は四肢が全く動かないので自分を植物と同一視し、植物の眼で空や水や風や風景やいのちあるものをこよなく愛し続けたのです。そして現在も詩画や随筆の創作に情熱を燃やしております。
「愛、深き淵より」、「かぎりなくやさしい花々」、「鈴の鳴る道」、「種蒔きもせず」などなどすばらしい作品を残しております。

彼の「いのち」についての言葉をいくつか味わいましょう。

「この道は茨（いばら）の道、しかし茨にもほのかにかおる花が咲くあの花が好きだから、この道をゆこう」

「私にできることは小さなこと。でも、それを感謝してできたら、きっと大きなことだ」

「辛いという字がある。もう少しで幸せになれそうな字である」

「暗く長い土の中の時代があった。いのちがけで芽生えた時もあった。しかし草はそういった昔をひとことも語らず、もっとも美しい今だけを見せている」

「よろこびが集まったよりも悲しみが集まった方がしあわせに近いような気がする。強いものが集まったよりも弱いものが集まった方が真実に近いような気がする。しあわせが集まったよりもふしあわせが集まった方が愛に近いような気がする」

「いのちが一番大切だと思っていたころ、生きるのが苦しかった。いのちより大切なものがあると知った日、生きているのが嬉しかった」

聖マルチン病院　井原彰一

教区スケジュール

3月
1日（土）(拡大)宣教司牧評議会in徳島地区（～２）
2日（日）年間第８主日
4日（火）司祭評議会10:30
5日（水）灰の水曜日（四旬節）（大斎・小斎）
9日（日）四旬節第１主日
16日（日）四旬節第２主日
17日（月）日本の信徒発見の聖母祝日
19日（水）†聖ヨセフ
21日（金）春分の日10：00召命の集い・ヨゼフ朗読奉仕者選任式・高山司祭/助祭候補認定式
22日（土）青年カンボジアスタデェツアー（～３１）
23日（日）四旬節第３主日
25日（火）†神のお告げ　10:00静修
29日（土）人権委員会講演会in鳴門(～30)＜狭山事件50年＞
30日（日）四旬節第４主日
4月
4日（金）山下悟師命日
6日（日）四旬節第５主日
13日（日）受難の主日(枝の主日)（聖週間）【世界青年の日】
16日（水）聖香油11：00ミサ
17日（木）聖木曜日（主の晩さん）
18日（金）聖金曜日（主の受難）（大斎・小斎）【聖地献金】
19日（土）聖土曜日/復活徹夜祭
20日（日）†復活の主日
21日（月）広島教区司祭との交流会in岡山
27日（日）復活節第２主日（神のいつくしみの主日）
28日（月）顧問会10：30／静修14：00
29日（火）昭和の日　聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士　記

『福音を通して憲法を学ぶ』

松山教会　社会活動委員会　日本カトリック正義と平和協議会　共催

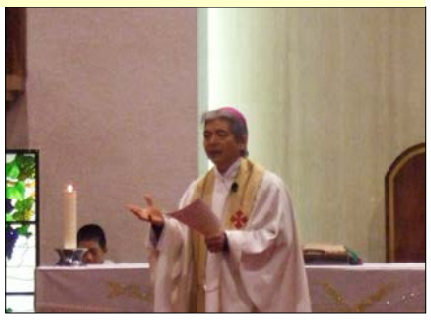
松山教会　尾崎寿一

1月12日、日本カトリック正義と平和協議会の協賛を得、松山教会社会活動委員会は松浦悟郎司教様をお迎えして学習会と懇談会を開催した。

学習会に先立ち、まずミサを行い、司式された松浦悟郎司教の親しみを込めた「お互いに挨拶をしましょう」との導入の言葉に私達も笑顔で応え合い、聖堂の雰囲気がすぐに和やかになったように感じられ、続くミサ後の学習会には１００名以上もの参加者があり盛会であった。

司教様は学習会の前半に、「なぜ教会は社会問題に関わるのか」というテーマについて話された。　イエスが貧しい人や苦しんでいる人々に寄り添って共に歩まれたように、私達もイエスの弟子として人の悲しみや苦しみが伴う社会問題に関心を持って生きることが求められていること、また社会の中でカトリック信者として生きている私達は、社会生活に支障をきたすような貧困、差別、矛盾、不条理から生じる問題に真剣に向き合う使命があることを強調され、教会に集う私達が人の悲しみや苦しみに無関心でいるなら、それはイエスの弟子であると言えるでしょうか、と問いかけられた。

平和を大切にする9条を守ろう　松浦司教語る



続いてパレスチナ紛争で、子供を救うために戦車の前に立ちはだかって戦車にひき殺された女性の話を採り上げられ、自分自身の危険を顧みず、弱い者を救うために命を投げ出したその女性の行為の中にイエスはおられ、人々はまさにイエスご自身ををみたのではないかとのべられた。

この話を聞いて、弱い者の立場に立ち、共感し、助けることは、命を懸けるほどの勇気と覚悟を持ってしなければ出来ることではないとつくづく思った。

さらに、世界のいたる所で起きている災害に苦しむ人々、戦争による被害者や孤児達のことを、自分の家族や子供達に置き換えて考えてみるならば、その悲しみや苦しみは自分のものとなるでしょうと言われた。

司教様のお話しはともすれば無関心で傍観者的態度を取り、向き合うことに目をそむけがちな私の心を鋭くえぐるものだった。社会の不条理に目をそむけてはならない、これからは信者としてもっと社会問題に真剣に関わらねばならないと改めて思わされた。

その後、戦争や放射能による汚染について述べられ、この問題は現在の私達と未来の子供達の絆を断つものであり、私達には現在と未来を分断することがらに抗し、平和な世代を繋ぐ努力をする責務があると締めくくられた。

後半のおもなテーマは自民党の改憲草案の問題点についての講話でした。

今の憲法は国民が主権者であるため、憲法が私達を護ってくれている。憲法によって一人一人が大切にされ人権が護られている。信教の自由も、表現の自由も護られ、知る権利も保障されている。

しかし、自民党が考えている憲法の主権者は、国民ではなくて国家であることを指摘された。

その中で主権者が国家になると、国の意向が優先され、一人一人は大切にされなくなり、信教や表現の自由、知る権利も制限される恐れがあること。脱原発運動も国家の利益にならないと国が判断すれば規制することが可能になること。宗教活動についても、国が靖国神社参拝を決めて国民に参拝を強要することも可能も無ではないことなどを話された。

そして、日本国憲法の果たしてきた平和的な役割として、ハーグの平和アピール市民社会会議において、「各国議会は日本国憲法第９条のような、政府が戦争をすることを禁止する決議を採択すべきである。」という原則が盛り込まれたこと。また、南極条約では、南極は平和目的のみに利用されるべきだとし、憲法第９条の精神が生かされていること。

このように日本国憲法は平和を守り寄与するものであり、その憲法を守ってきた日本国民に対してアジアや中東では尊敬の念を持って見られてきたが、それが今危うくなってきていることも心すべきであること等を強調された。

学習会の後、昼食を摂りながら、希望者との懇談会を設け、忌憚のない意見の交換がなされた。

その中で司教様が強調されたのは、私達信者は物事を判断する時、福音に叶っているか、反するかを考えなければならないということであった。

人にはそれぞれの意見や考えがある、しかし平和を大切にする９条を守るためには皆が一致し、繋がっていけるのではないか。憲法を守ろう、平和を守ろう、福音が詰まっている憲法を手放してはならないと熱く語られた。

司教様が遠路松山まで来られて、松山の地に福音の種を播いてくださったのだから、私たちもこれから少しずつこの種を育てていくために意見を交換し、情報を共有するなど、出来ることから始めようと心に誓った。

編集後記

主の御降誕と新年を祝った感に浸っていたところ、早くも四旬節に入った。
教会典礼の頂点である聖なる3日間と主の復活を相応しく迎えるための心の点検と清めのためには無くてはならない大切な季である。
教区設立50周年を機とした教区の在り方の中で、教区の欠けた部分をその整った心を以て、信徒の奉仕職への積極的参加によって、より豊かなものとする好機が訪れている。
信徒の時代といわれて久しい。ここは名実共なる信徒の時代の到来を期待していいところだろう。（J）

告　知　板

朗読奉仕者選任式
ヨゼフ・
司祭助祭候補認定式
高山　徹

期　日：14年3月21日(金)午前10時
場　所：桜町司教座聖堂

式後
高松教区召命の集い

子どもたちとともに主日の福音を
『こじか』2014年度のご案内

こどもたちに福音を味わう１週間を
わかりやすいと好評の主日の福音解説を中心に、多彩な記事で子どもたちにイエスさまのまなざしを伝える「こじか」。どこへでも１部からお届けいたします。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしてもご好評いただいています。

・毎週日曜日発行（年44週）Ｂ５判・16頁（ふりがなつき）
・定価65円+税（送料別）＊15部以上55円+税
・国内年間定期購読（年44週分）
・１部4100円／２部7400円（税・送料込。２部の価格は同じ発送先の場合）

お申し込み、お問い合わせ、見本誌請求は
下記にどうぞ
オリエンス宗教研究所
〒156-0043　東京都世田谷区松原2-28-5
電話：03-3322-7601／Fax：03-3325-5322
http://www.oriens.or.jp/

不要になった車を譲ってください。
宣教司牧活動に使用します
お心当たりの方は是非お知らせを！
高松教区事務局
TEL：087-831-665　FAX：087-833-1484

聖ドミニコ宣教修道女会

医療法人社団聖心会　阪本病院
わたしたちは、患者様の立場に立った全人医療を行い、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します
院内保育園完備
整形外科・脳神経外科・泌尿器科
皮膚科・外科・消化器外科
肛門外科・乳腺外科・形成外科
呼吸器外科・呼吸器内科・内科
リウマチ科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科
〒769-2602
香川県東かがわ市川東103-1
☎0879-25-1121（代）
http://www.sakamoto-hosp.or.jp/

TSC　高松教区サポートセンター

東日本大震災大船渡支援献金入金報告　(含お米券)
12・1月分557,786円
(内ワンコイン22,400円)

送金報告
2013年12月27日
大阪管区大船渡プロジェクトへ3.875.347円送金

大船渡プロジェクト活動状況閲覧は157号P4「日本のカトリック教会東日本大震災支援アクセス」にてご覧ください。